

「ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム
(ゲノム医療実現推進プラットフォーム・先端ゲノム研究開発)」
研究開発課題 中間評価結果

研究開発課題名	失明回避を目指す開放隅角緑内障の遺伝的リスク予測に関する研究開発
代表機関名	九州大学
研究開発代表者名	秋山 雅人
全研究開発期間	令和元年度 ~ 令和5年度(予定)

【評価コメント】

緑内障の遺伝的要因を背景に進めており、今後、より大規模なデータによって遺伝的リスクスコアが改善されることが見込まれ、計画通りに研究が進んでいる。予防分野への応用に向けても着実に進展している。一方で、現状の遺伝的リスクスコアモデルはGRSの域を出ておらず、また患者群が予定とおり収集できるかどうかも懸念される。開放隅角緑内障においてポリジェニック効果が存在するとの結果から、低頻度な遺伝子変異情報を用いた判定性能の改善を要する。また、ヘリタビリティとの観点でどのように環境要因(加齢、生活習慣)を検討して進めるか、予防分野への応用も社会実装化への向けた介入方法など、それぞれに具体的な研究内容の選択と計画の精査が必要であろう。

以上